

<全体分析>

試験時間 120 分

<p>解答形式 全問マーク式</p> <p>分量・難易（前年比較） 分量（減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加） 難易（易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化） 長文3題の総語数は、大問構成が変わった 2016 年度から順に、「2,318→2,455→2,371→2,398→2,600→2,518→2,424→2,710」となっている。</p> <p>出題の特徴 ・長文2題の構成が長年続いたが、2016年度から長文3題の構成になっている（総設問数は60のまま）。 ・大問ⅠとⅡは「空所補充10問（3択）」と「内容一致5問（4択）」で、大問Ⅲは「空所補充20問（3択）」と「内容一致10問（4択）」という形式が8年続いている。</p> <p>その他トピックス 大問ⅠとⅢは記事のタイトル（Ⅰ：3-D printers give us a new way to think／Ⅲ：The soul of a start-up）が与えられているが、大問Ⅱでは最後の設問がタイトル選択（Rethinking Robin Hood）になっている。</p>

<大問分析>

番号	区分	出題分野・テーマ	コメント（設問内容・答案作成上のポイントなど）	難易度
I	読解総合	「3D プリンターが与えてくれる新しい考え方」（581 words）	内容一致は、[43]の3-D printers と ink jet printers を比較させる設問など、本文中の具体的事例に焦点をあてたものが多くポイントはおさえやすい。空所補充では、[33] cranking out、[35] array、[40] manipulable あたりの難度が高い。	標準
II	読解総合	「ロビンフッドの原則を再考する必要性」（787 words）	大問Ⅱとしては本文の分量が多いが、内容一致は第6段落以降に集中していて、なおかつ下線部の意味するものや they の指示対象などが3問出題されているのが特徴的。空所補充では、[48] less、[49] feat、[50] cost、[52] undoubtedly など、文脈把握を試すものが多い。	標準
III	読解総合	「成長したあとも起業家精神を維持する企業」（1,342 words）	内容一致の選択肢を含めると相当な分量になるので、鍵となるフレーズ（人名や企業名を含む）など、設問や選択肢をチェックしておいて本文と照合させるという解き方が効率的だろう。空所補充では難単語のほか、[63] home in (on)、[76] shelve (plans)、[78] nurse ではなじみの薄い動詞としての用例が試されている。	やや難

注：区分は「英文解釈」「読解総合」「英作文」「文法・語法」「聞き取り」「その他」

難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

<p>120分の試験時間とはいえ、効率よく解いていかないと時間切れになるおそれがある。そうした意味でも、設問の狙いや語彙レベルに習熟するのに過去問対策は欠かせない。最近の人文科学や自然科学の話題を扱ったニュース記事や抽象度の高い論説文からの出題が多く、高度な語彙力に裏づけされた正確で緻密な読解力を養成することが不可欠である。出題傾向は定着しているわけだから、まずは過去問をはじめ、こうしたレベルの英文を数多く読みこなし、語彙力の増強に努めることが大切である。一般常識や背景知識の豊かさも大きな武器となるので、日頃から社会情勢などに関心をもち、英文の新聞や雑誌などの記事（インターネットや最新のテクノロジーに関連するテーマは頻出）をインターネットで読み慣れておくことが望ましい。</p>
